

# あるいは書道家、あるいは理学療法士、 いくつもの夢を見た若者が、介護に挑む

キャリアアップ

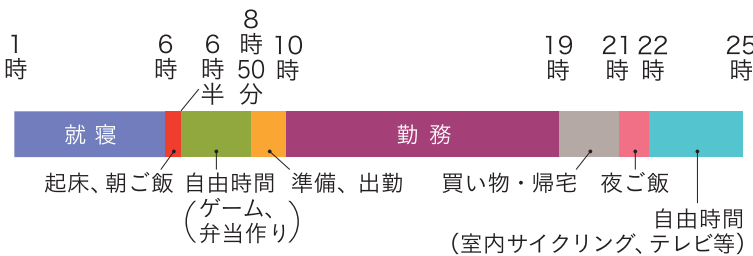
大坪優也さん / 21歳

特別養護老人ホーム アットホーム諸岡  
介護福祉士

キャリア

13歳頃	理学療法士になりたいと思う
18歳頃	高3の頃介護福祉士を目指す
19歳頃	高校卒業後、介護福祉士の養成校に入学する
21歳頃	介護福祉士の資格を取得し、現職に就く

ある日の1日



POINT

- 両親の背中を見て目指した介護職、県の助成制度も背中を押した
- 目標を立てしっかり実践して確実に介護をマスター
- オフはスポーツとツーリングでストレス解消

## 福祉の仕事始める前は何をしていた？

— 高卒後、介護福祉士の資格を取り  
この世界に入りました

高校を卒業後、介護福祉士の養成校に進学し、介護福祉士の資格を取りましたが、高校3年生までは理学療法士になるのが夢でした。中学生の時、バレーボールで右肘を痛め手術をしたのですが、リハビリで一生懸命に怪我と向き合ってくれた方が、身近な存在として僕を勇気づけ、僕と同じ目線で歩んでくれました。その方が理学療法士だったと知り、憧れたからです。その後進学した高校にはバレー部がなく、たまたま入った書道部で書道にのめり込みました。全国大会で1位となり、大学の特待生に選ばれたので、理学療法士を目指すか書道の道に進むか迷っていましたが、最終的には介護の道に進むことを決めて、介護福祉士の養成校に進学しました。

— 我が家は介護一家でした

実は介護には小さい頃から馴染みがありました。父が介護施設で働いていましたし、母も姉も介護関係の仕事をしていました。小学生の頃、父が職場に連れて行ってくれました。オープンしたばかりの施設はとてもきれいで、「楽しそうな職場だな」と思いました。スタッフさんが明るくのびのびやっていたのを今でも覚えています。だから入職したときは、嬉しさと同時に懐かしさがこみ上げてきました。

専門学校へは福岡県から奨学金をもらって通いましたが、5年間県内で働けば返済が免除になる制度が利用でき、経済的にも魅力的でした。また、専門学校の建物の一面にあるデイサービスでアルバイトをしたのは就職前のいい経験となりました。

## ❗ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

### — 独り立ちするとともに視野が広がりました

入職して最初の半年は無我夢中でしたが、独り立ちする頃から徐々に視野が広がってきました。入居者さんに対して、こうなったらサポートに入ろうとか、色々考えられるようになりました。専門学校時代に「なぜ？どうして？」という投げかけをしながら自分自身を振り返るということを学んだので、今でもそうして毎日振り返っています。

仕事をする上で大切にしていることは、目標を立てて一つずつクリアしていくことです。今の目標は、来年新しく入ってくる新人さんにとって、「1年後にはこうなれるんだ」という一つのボーダーラインになることで、そのために頑張っています。もう一つの大切にしていることは、入居者さんが今何をしたいのか、相手の目線で考えることです。これは介護に取り組む自分が一生抱え続けることになりそうです。

介護は話で聞くよりも体験した方が、感じることは多くあると思いますので、ぜひ体験してみてください。



## ❗ 仕事以外はどんな生活をしている？

### — スーパードッジボールとサイクリングでストレス解消しています



スーパードッジボールという競技用にアレンジされたドッジボールをやっています。小3から小6まで続けて、中学時代はバレーボールをやっていたのですが、高2からは社会人のチームでやらせてもらっているのでもはや生活の一部になっています。

もう一つはサイクリングです。ロードバイクに乗っています。もともとバスや電車など密集する乗り物が苦手で、専門学校に通学するために、定期代の代わりにロードバイクを買ったのがきっかけでハマりました。働き始めてグレードアップしたいと思い、お金をためて2台目のロードバイクを買いました。1日100～200kmと走るときもあります。八女市や嬉野市、左の写真は、大分県のやまなみハイウェイに行った時のものです。友人や職場の人など、自転車を通して仲間が増えて楽しいです。

取材を  
終えて

まだ1年目なので・・・と話される大坪さんですが、日々を振り返りながら、一つ一つ努力を積み重ねる姿からは、頼もしさを感じました。